

「睡眠による休養感」予測要因に関するシステマティックレビュー

研究分担者 井谷修¹，渡辺範雄^{2,3}，兼板佳孝⁴，角谷寛⁶

研究協力者 大槻怜⁸，大塚雄一郎⁴，松本悠貴⁷

- 1 国際医療福祉大学医学部公衆衛生学
- 2 蘇生会総合病院
- 3 京都大学医学部附属病院精神科神経科
- 4 日本大学医学部社会医学系公衆衛生学分野
- 5 滋賀医科大学精神医学講座
- 6 日本大学医学部精神医学系精神医学分野
- 7 久留米大学医学部看護学科

研究要旨

前回の研究班において、睡眠の質は「睡眠による休養感」に関係があることが示された。今回の研究班においては、「睡眠による休養感」を得るための要素、すなわち、睡眠による休養感の自覚を得るためにどのような因子（生活習慣）が関係しているのかについて、先行研究のエビデンスを集約するべく、システマティックレビューを行うことにした。restorative/non-restorative sleep を主要なキーワードとした検索式を作成した上で複数の医療データベースを用いて関連研究の検索を行った。その結果、7,164 編の研究が抽出された。抽出した論文のタイトル・要約を閲覧して登録基準に合う論文を 16 編選定し、更にその論文の全文を閲覧し最終的に条件に合致する先行研究 9 編を選定した。該当する論文の中で、睡眠による休養感を有意に阻害する要因としては、糖尿病、高血圧、癌、CES-D 高得点、低 ADL、朝の起床困難、日中の疲労、短時間睡眠、自覚的ストレス、自己決定権の無さ、大量飲酒、早食い、就寝前の食事、夜間の間食、朝食抜き、不規則な運動、低運動量、歩く速度が遅いことであった。量的結合（メタアナリシス）は性別（女性であること）について行うことができたが、有意な関連は認められなかった。

A. 研究目的

厚生労働省が推進している第2次健康日本21において、睡眠による休養を十分とれていない者の割合は平成21年度が約18%であったのに対し、平成30年度は21.7%と増加傾向にある。睡眠時間は十分な休養がとれているかどうかの一つの目安になるが、睡眠とは確保できている時間の長さのみでよし悪しを判断できるものではない。主観的な睡眠の質は睡眠の導入、睡眠の維持、睡眠の深さ質の評価及び向上手法確立のための研究」研究班においては、様々な視点より「睡眠の質」につい

（熟睡感）、目覚めた時の爽快感、日中の眠気、目覚めた時の疲労感の有無などといった様々な睡眠の要素を多次的に統合し、睡眠の経験に対する包括的な評価となり得る¹⁻⁵。しかしながら、睡眠の質については研究ごとに基準が異なっており、明確な定義がなされていない状況であった。

そこで、平成31～令和2年度の「健康づくりのための睡眠指針2014」のブラッシュアップ・アップデートを目指した「睡眠の」で検討を行った結果、睡眠の質は「睡眠による休養感」との関係していることを見出した⁶。

今回の研究では、「睡眠による休養感」や「睡眠による回復感」を高めるために、どのような要素・生活習慣が関係しているのかについて、先行研究の結果を集約し、エビデンスの抽出を試みることにした。この試みにより、「睡眠による休養感」を高める要素が判明すれば、その要素の改善により「睡眠による休養感」、ひいては睡眠の質向上につながると考えられる。

今回、「睡眠による休養感」についての先行研究検索を行うにあたって” Non-Restorative Sleep (NRS)”という概念に注目することにした。この概念は「睡眠が十分にリフレッシュまたは回復されなかったという主観的な経験として定義される」^{7,8}ものである。Non-Restorative Sleep に関する先行研究はいくつか報告されている⁹⁻¹¹ことをすでに認識しているが、今回のシステマティックレビューにおいては先行研究を網羅的に検索・選択を行うことにより、その全体像の把握に努めることにした。

B. 研究方法

システマティックレビューを実施するにあたり、まずは対象とする研究の条件（リサーチクエスション、PICO）を以下のごとく設定した。

- 前向き・後ろ向きコホート研究)のみとし、横断研究は除外する。
- ベースライン調査で各種生活習慣・要因を測定している。
- アウトカムは、回復/非回復性睡眠 (restorative/non-restorative sleep), 睡眠による休養感・睡眠による回復感・睡眠の満足感などを含む。
- 対象集団は特定の疾病に罹患したものは除外する（一般住民を対象とする）。
- 対象集団の年齢は問わない。
- 抽出論文は原著論文・学位論文・および学会報告等を対象とし、レビュー（総説）は除く。
- 原則として言語および発行年で制限はかけないものとする。
- 同一のデータソースを用いた複数の研究（一つの研究成果を複数の論文で発表しているもの）については、いったんすべて採用とし、2次チェック以降の最終段階で理由を付して代

表的なもの以外を除外する。

以上の対象研究の条件をもとに、複数の医療データベースで検索を行った。具体的には、restorative sleep についての先行 review 研究で用いられた検索式¹²を参考に、睡眠による回復感/非回復感をキーワードとして検索式を作成し、複数のデータベース(PubMed, PsycINFO, EMBASE, 医学中央雑誌)で横断的検索を行った。

データベースによる検索を行って、結果を統合した後に、研究発表が対象研究の条件に合致しているか否かについてチェックをおこなうということで、まずは1次チェックを実施した。1次チェックとは、データベースで検索された研究の題名と抄録だけを参照し、該当研究か否かを判断する作業である。独立した2名の研究員の構成で、同じ作業を独立して1次チェック作業を実施した。作業終了時に2名でディスカッションを行い、意見の統一を行った。

1次チェックで抽出された研究について、更に同じ2名で2次チェックを行った。2次チェックでは研究発表全文を参照した上で、該当研究発表か否かを判断し、最終的に該当する研究の同定を行った。2次チェックにおいても同グループ内の2名が独立して作業を行い、最終的に2名がディスカッションして該当研究の確定を行った。

最終的に該当した研究について、個々の研究内容の主要な結果について要約・抽出して該当研究一覧表を作成した。また、個別の研究の質についても評価ツールを使って評価を行った。今回の研究では、研究の質の評価には観察研究の質評価ツールである、Quality In Prognosis Studies tool: QUIPS を用いて評価した。

最後に、抽出した個々の研究結果で、同種のアウトカムを扱っており量的な結合が可能な研究については、量的結合であるメタアナリシスを行った上で、休養感のある睡眠に関係する要因の同定を行った。

C. 結果

データベースでのキーワード検索の結果、PubMedで4,410件、PsycINFOで618件、EMBASEで2,577件、医学中央雑誌で81件の研究が抽出さ

れた。このうち重複していた論文 522 件を除外し、合計 7,164 件の研究を探索対象とした。

研究抽出グループ別の 1 次チェックおよび 2 次チェックの結果を図 1 に示す。1 次チェックでは 7,164 編の研究より 16 編を抽出した。1 次チェック時の 2 名の研究者の判定一致率（カッパ値）は 0.833 で高い一致率を認めた。そして、2 次チェック終了後の最終該当論文数は合計 6 編（うち原著論文 4 編・学会発表 2 編）であった。この 6 編に専門家とのディスカッションで得られた既知の基準該当論文 3 編を追加した、合計 9 編¹²⁻²⁰を最終的な合致論文とした。

抽出した 9 編の研究の個々の内容の概要について表 1-1 および表 1-2 に示す。最初の該当研究は 2009 年の発表のものであった¹²。該当する論文の中で、睡眠による休養感を有意に阻害する要因としては、糖尿病、高血圧、癌、CES-D 高得点、低 ADL、朝の起床困難、日中の疲労、短時間睡眠、自覚的ストレス、自己決定権の無さ、大量飲酒、早食い、就寝前の食事、夜間の間食、朝食抜き、不規則な運動、低運動量、歩く速度が遅いことであった。

また、ここの研究の質について QUIPS を用いて評価したものを表 2 に示す。そして、量的結合であるメタアナリシスを行うためには最低でも 2 編以上の研究結果が必要であるが、2 編以上の研究のあるアウトカムは性別を扱った 2 編^{14, 15}のみであった。図 2 にメタアナリシスの結果を示す。2 編の研究結果の結合によるリスク比は 1.05、95%信頼区間は 1.00-1.10、P 値は 0.06 であり、有意なリスク上昇は認めなかった。

D. 考察

休養感のある睡眠の予測因子抽出のため、複数のデータベースより前向き研究の検索を行い、先行研究として 9 編を抽出した。有意な予測因子として同定できた因子もあったが、複数の研究で同一の要素は殆どなかった。唯一性別でメタアナリシスが行えたが、有意ではなかった。

休養感のある睡眠の予測因子同定のため、必要な生活習慣や各種要素の調査を網羅した質の高い縦断研究が今後活発に行われる必要があると思われる。

E. 結論

今回我々は、「睡眠による休養感」に係する要

素についてのシステマティックレビューを行うこととした。データベース検索の結果、約 7,000 件の候補研究を抽出し、最終的に 9 編の研究を同定して、個々の質の評価、および結果の質的結合、量的結合を行った。

[倫理面への配慮]

本研究においては、文部科学省・厚生労働省の疫学研究に関する倫理指針に基づいて実施した。今回研究結果の検索にあたって既存のデータベースを使用したか、このデータベースには個人情報含まれていない。

参考文献

1. Buysse DJ, Reynolds CF, 3rd, Monk TH, Berman SR, Kupfer DJ. The Pittsburgh Sleep Quality Index: a new instrument for psychiatric practice and research. *Psychiatry Res* 28:193-213, 1989.
2. 土井由利子, 箕輪眞澄, 内山真, 大川匡子. ピッツバーグ睡眠質問票日本語版の作成. *精神科治療学* 13:755-763, 1998.
3. Ensrud KE, Blackwell TL, Ancoli-Israel S, Redline S, Cawthon PM, Paudel ML, Dam TT, Stone KL. Sleep disturbances and risk of frailty and mortality in older men. *Sleep Med* 13:1217-1225, 2012.
4. Okajima I, Komada Y, Nomura T, Nakashima K, Inoue Y. Insomnia as a risk for depression: a longitudinal epidemiologic study on a Japanese rural cohort. *J Clin Psychiatry* 73:377-383, 2012.
5. Chen MC, Liu HE, Huang HY, Chiou AF. The effect of a simple traditional exercise programme (Baduanjin exercise) on sleep quality of older adults: a randomized controlled trial. *Int J Nurs Stud* 49:265-273, 2012.
6. 栗山健一 他. 「健康づくりのための睡眠指針 2014」のブラッシュアップ・アップデートを目指した「睡眠の質」の評価及び向上手法確立のための研究 総括・分担研究報告書 (2021) <https://mhlw-grants.niph.go.jp/project/146780>.
7. Stone KC, Taylor DJ, McCrae CS, Kalsekar A, Lichstein KL. Nonrestorative sleep. *Sleep Med Rev* 12:275-288, 2008.

8. Wilkinson K, Shapiro C. Nonrestorative sleep: symptom or unique diagnostic entity? *Sleep Med* 13:561-569, 2012.
 9. Matsumoto T, Chin K. Prevalence of sleep disturbances: Sleep disordered breathing, short sleep duration, and non-restorative sleep. *Respir Investig* 57:227-237, 2019.
 10. Wakasugi M, Kazama JJ, Narita I, Iseki K, Moriyama T, Yamagata K, Fujimoto S, Tsuruya K, Asahi K, Konta T, Kimura K, Kondo M, Kurahashi I, Ohashi Y, Watanabe T. Association between combined lifestyle factors and non-restorative sleep in Japan: a cross-sectional study based on a Japanese health database. *PLoS One* 9:e108718, 2014.
 11. Matsumoto T, Tabara Y, Murase K, Takahashi Y, Setoh K, Kawaguchi T, Muro S, Kadotani H, Kosugi S, Sekine A, Yamada R, Nakayama T, Mishima M, Matsuda F, Chin K. Combined association of clinical and lifestyle factors with non-restorative sleep: The Nagahama Study. *PLoS One* 12:e0171849, 2017.
 12. Virtanen M, Ferrie JE, Gimeno D, Vahtera J, Elovainio M, Singh-Manoux A, Marmot MG, Kivimäki M. Long working hours and sleep disturbances: The whitehall II prospective cohort study. *Sleep*. 2009;32:737-745
 13. Zhang J, Lam SP, Li SX, Yu MWM, Li AM, Wing YK. Prevalence, course and long-term impact of non-restorative sleep: A five-year community-based follow-up study. *Sleep Medicine*. 2011;12:S7-S8
 14. Pedraza S, Al Snih S, Ottenbacher KJ, Markides KS, Raji MA. Sleep quality and sleep problems in Mexican Americans aged 75 and older. *Aging Clin Exp Res*. 2012;24:391-397
 15. Zhang J, Lam SP, Li SX, Li AM, Wing YK. The longitudinal course and impact of non-restorative sleep: a five-year community-based follow-up study. *Sleep Medicine* 13:570-576, 2012.
 16. Garefelt J, Hyde M, Westerlund H, Åkerstedt T. Reciprocal relations between job strain and nonrestorative sleep in the Swedish working population. *Journal of Sleep Research*. 2016;25:307
 17. Åkerstedt T, Discacciati A, Miley-Åkerstedt A, Westerlund H. Aging and the change in fatigue and sleep—A longitudinal study across 8 years in three age groups. *Frontiers in Psychology*. 2018;9
 18. Garefelt J, Platts LG, Hyde M, Magnusson Hanson LL, Westerlund H, Åkerstedt T. Reciprocal relations between work stress and insomnia symptoms: A prospective study. *J Sleep Res*. 2020;29:e12949
 19. Tettamanti G, Auvinen A, Akerstedt T, Kojo K, Ahlbom A, Heinavaara S, Elliott P, Schuz J, Deltour I, Kromhout H, Toledano MB, Poulsen AH, Johansen C, Vermeulen R, Feychting M, Hillert L, Group CS. Long-term effect of mobile phone use on sleep quality: Results from the cohort study of mobile phone use and health (COSMOS). *Environ Int*. 2020;140:105687
 20. Otsuka Y, Kaneita Y, Tanaka K, Itani O, Matsumoto Y, Kuriyama K. Longitudinal assessment of lifestyle factors associated with nonrestorative sleep in Japan. *Sleep Med*. 2022;101:99-105
- F. 健康危険情報**
なし
- G. 研究発表**
- G-1. 論文発表
1. Fujii M, Kuwabara Y, Kinjo A, Imamoto A, Jike M, Otsuka Y, Itani O, Kaneita Y, Minobe R, Maesato H, Higuchi S, Yoshimoto H, Kanda H, Osaki Y. Trends in the co-use of alcohol and tobacco among Japanese adolescents: periodical nationwide cross-sectional surveys 1996-2017. *BMJ open*. 2021;11:10
 2. Goto Y, Fujiwara K, Sumi Y, Matsuo M, Kano M, Kadotani H. Work Habit-Related Sleep Debt; Insights From Factor Identification Analysis of Actigraphy Data. *Frontiers in public health*. 2021;9:14
 3. Hamilton GS, Gupta R, Vizcarra D, Insalaco G,

- Escobar F, Kadotani H, World Sleep S. Endorsement of: "clinical practice guideline for diagnostic testing for adult obstructive sleep apnea: an American academy of sleep medicine clinical practice guideline" by the World Sleep Society. *Sleep Med.* 2021;79:152-154
4. Itani O. Sleep disorders in cancer patients. *Sleep and Biological Rhythms.* 2021;19:341-342
 5. Itani O, Kaneita Y, Harano S, Tokiya M, Otsuka Y, Matsumoto Y, Nakagome S, Kinoshita Y. Psychometric Properties of a New Simplified Scale to Assess the Quality of Workers' Rest and Recreation on Their Days Off. *Yonago Acta Medica.* 2021;64:67-79
 6. Ito K, Kadotani H, Okajima I, Ubara A, Ichikawa M, Omichi C, Miyamoto T, Matsuda A, Sumi Y, Kitagawa H. Large Questionnaire Survey on Sleep Duration and Insomnia Using the TV Hybridcast System by Japan Broadcasting Corporation (NHK). *International Journal of Environmental Research and Public Health.* 2021;18:10
 7. Iwasaki A, Nakayama C, Fujiwara K, Sumi Y, Matsuo M, Kano M, Kadotani H. Screening of sleep apnea based on heart rate variability and long short-term memory. *Sleep and Breathing.* 2021;25:1821-1829
 8. Kadotani H, Ubara A, Sumi Y, Ito K, Matsuda A, Miyamoto T, Omichi C. SELF-ISOLATION DUE TO COVID-19 WAS NOT ASSOCIATED WITH CHANGES IN DEPRESSION, SLEEPINESS, AND INSOMNIA IN SHIGA PREFECTURE, JAPAN. *Sleep.* 2021;44:A256-A257
 9. Kinoshita Y, Itani O, Otsuka Y, Matsumoto Y, Nakagome S, Kaneita Y. A Nationwide Cohort Study of Parasomnias Among Adolescents. *Journal of Clinical Psychiatry.* 2021;82:8
 10. Kinoshita Y, Itani O, Otsuka Y, Matsumoto Y, Nakagome S, Osaki Y, Higuchi S, Maki J, Kanda H, Kaneita Y. A nationwide cross-sectional study of difficulty waking up for school among adolescents. *Sleep.* 2021;44:10
 11. Kurimoto N, Inagaki T, Aoki T, Kadotani H, Kurimoto F, Kuriyama K, Yamada N, Ozeki Y. Factors causing a relapse of major depressive disorders following successful electroconvulsive therapy: A retrospective cohort study. *World journal of psychiatry.* 2021;11:841-853
 12. Kuwabara Y, Kinjo A, Fujii M, Minobe R, Maesato H, Higuchi S, Yoshimoto H, Jike M, Otsuka Y, Itani O, Kaneita Y, Kanda H, Osaki Y. Effectiveness of Screening and Brief Alcohol Intervention at the Workplace: A Study Protocol for a Randomized Controlled Trial at Five Japan-Based Companies. *Yonago Acta Medica.* 2021;64:330-338
 13. Matsumoto Y, Kaneita Y, Jike M, Osaki Y, Kanda H, Higuchi S, Itani O, Otsuka Y. Clarifying the factors affecting the implementation of the "early to bed, early to rise, and don't forget your breakfast" campaign aimed at adolescents in Japan. *Sleep and Biological Rhythms.* 2021;19:325-336
 14. Nishikawa K, Kuriyama K, Yoshiike T, Yoshimura A, Okawa M, Kadotani H, Yamada N. Effects of Cognitive Behavioral Therapy for Insomnia on Subjective-Objective Sleep Discrepancy in Patients with Primary Insomnia: a Small-Scale Cohort Pilot Study. *International journal of behavioral medicine.* 2021;28:715-726
 15. Omichi C, Ayani N, Oya N, Matsumoto Y, Tanaka M, Morimoto T, Kadotani H, Narumoto J. Association between discontinuation of benzodiazepine receptor agonists and post-operative delirium among inpatients with liaison intervention: A retrospective cohort study. *Comprehensive psychiatry.* 2021;104:6

16. Otsuka Y, Ito Y, Matsumoto Y, Kimura K, Kajiwara Y, Okubo K, Tsuchiya M, Okada R, Ishii J, Maeda T, Funahashi K, Kaneko H. Feasibility of totally laparoscopic hemi-hepatectomies for liver tumor, with consideration of correspondence for difficult cases. *Hepatoma Res.* 2021;7:15
17. Otsuka Y, Kaneita Y, Itani O, Matsumoto Y, Jike M, Higuchi S, Kanda H, Kuwabara Y, Kinjo A, Osaki Y. The association between Internet usage and sleep problems among Japanese adolescents: three repeated cross-sectional studies. *Sleep.* 2021;44:9
18. Otsuka Y, Kaneita Y, Spira AP, Mojtabai R, Itani O, Jike M, Higuchi S, Kanda H, Kuwabara Y, Kinjo A, Osaki Y. Trends in sleep problems and patterns among Japanese adolescents: 2004 to 2017. *Lancet Reg. Health-W. Pac.* 2021;9:9
19. Sumi Y, Miyamoto T, Sudo S, Kadotani H, Ozeki Y, Imai M. Explosive sound without external stimuli following electroencephalography kappa rhythm fluctuation: A case report. *Cephalalgia : an international journal of headache.* 2021;41:1396-1401
20. Furihata R, Tateyama Y, Nakagami Y, Akahoshi T, Itani O, Kaneita Y, Buysse DJ. The validity and reliability of the Japanese version of RU-SATED. *Sleep Med.* 2022;91:109-114
21. Itani O, Kaneita Y, Otsuka Y, Tokiya M, Jike M, Matsumoto Y, Nakagome S, Kinoshita Y. A cross-sectional epidemiological study of the relationship between sleep duration, quality, and rhythm and presenteeism in workers. *Sleep and Biological Rhythms.* 2022;20:53-63
22. Ito K, Uetsu M, Ubara A, Matsuda A, Sumi Y, Kadotani H. Obstructive Sleep Apnoea Severity Is Negatively Associated with Depressive Symptoms: A Cross-Sectional Survey of Outpatients with Suspected Obstructive Sleep Apnoea in Japan. *International Journal of Environmental Research and Public Health.* 2022;19:13
23. Itoh Y, Takeshima M, Kaneita Y, Uchimura N, Inoue Y, Honda M, Yamadera W, Watanabe N, Kitamura S, Okajima I, Ayabe N, Nomura K, Mishima K. Associations Between the 2011 Great East Japan Earthquake and Tsunami and the Sleep and Mental Health of Japanese People: A 3-Wave Repeated Survey. *Nature and science of sleep.* 2022;14:61-73
24. Iwasaki A, Fujiwara K, Nakayama C, Sumi Y, Kano M, Nagamoto T, Kadotani H. R-R interval-based sleep apnea screening by a recurrent neural network in a large clinical polysomnography dataset. *Clinical Neurophysiology.* 2022;139:80-89
25. Kadotani H. Japanese clinical guideline for sleep apnea syndrome (SAS). *Sleep and Biological Rhythms.* 2022;20:3-3
26. Kadotani H, Okajima I, Yang KM, Lim MH. Editorial: The impact of social isolation and loneliness on mental health and wellbeing. *Frontiers in public health.* 2022;10:3
27. Kaneko Y, Konno C, Saitoh K, Furihata R, Kaneita Y, Uchiyama M, Suzuki M. Association of insomnia symptoms and non-restorative sleep with Typus melancholicus: a Japanese general population survey. *Sleep and Biological Rhythms.* 2022;20:391-395
28. Kuwabara Y, Kinjo A, Fujii M, Minobe R, Maesato H, Higuchi S, Yoshimoto H, Jike M, Otsuka Y, Itani O, Kaneita Y, Kanda H, Kasuga H, Ito T, Osaki Y. Effectiveness of nurse-delivered screening and brief alcohol intervention in the workplace: A randomized controlled trial at five Japan-based companies. *Alcohol Clin. Exp. Res.* 2022;46:1720-1731

29. Matsumoto Y, Kaneita Y, Itani O, Otsuka Y, Kinoshita Y. Longitudinal epidemiological study of subjective sleep quality in Japanese adolescents to investigate predictors of poor sleep quality. *Sleep and Biological Rhythms*. 2022;20:87-96
30. Matsumoto Y, Uchimura N, Ishitake T. The relationship between marital status and multifactorial sleep in Japanese day workers. *Sleep and Biological Rhythms*. 2022;20:211-217
31. Matsumoto Y, Uchimura N, Ishitake T, Itani O, Otsuka Y. Verification of sleep scales as predictors of suicidal ideation in Japanese dayworkers: a longitudinal study. *Sleep and Biological Rhythms*. 2022;20:577-583
32. Matsushima E, Otsuka Y, Itani O, Matsumoto Y, Kaneita Y. Association between nighttime urinary frequency and sleep problems among Japanese adolescents. *Int. J. Urol*. 2022;29:152-157
33. Nishikawa K, Kuriyama K, Yoshiike T, Yoshimura A, Okawa M, Kadotani H, Yamada N. Effects of Cognitive Behavioral Therapy for Insomnia on Subjective-Objective Sleep Discrepancy in Patients with Primary Insomnia: a Small-Scale Cohort Pilot Study (Feb, 10.1007/s12529-021-09969-x, 2021). *International journal of behavioral medicine*. 2022;29:253-253
34. Nishikawa N, Murata M, Hatano T, Mukai Y, Saitoh Y, Sakamoto T, Hanakawa T, Kamei Y, Tachimori H, Hatano K, Matsuda H, Taruno Y, Sawamoto N, Kajiyama Y, Ikenaka K, Kawabata K, Nakamura T, Iwaki H, Kadotani H, Sumi Y, Inoue Y, Hayashi T, Ikeuchi T, Shimo Y, Mochizuki H, Watanabe H, Hattori N, Takahashi Y, Takahashi R, Japan Parkinson's Progression M. Idiopathic rapid eye movement sleep behavior disorder in Japan: An observational study. *Parkinsonism & related disorders*. 2022;103:129-135
35. Omichi C, Kadotani H, Sumi Y, Ubara A, Nishikawa K, Matsuda A, Ozeki Y, NinJaSleep Study G. Prolonged Sleep Latency and Reduced REM Latency Are Associated with Depressive Symptoms in a Japanese Working Population. *International Journal of Environmental Research and Public Health*. 2022;19:10
36. Omichi C, Kaminishi Y, Kadotani H, Sumi Y, Ubara A, Nishikawa K, Matsuda A, Ozeki Y, NinJaSleep Study G. Limited social support is associated with depression, anxiety, and insomnia in a Japanese working population. *Frontiers in public health*. 2022;10:9
37. Omichi C, Koyama T, Kadotani H, Ozaki E, Tomida S, Yoshida T, Otonari J, Ikezaki H, Hara M, Tanaka K, Tamura T, Nagayoshi M, Okada R, Kubo Y, Oze I, Matsuo K, Nakamura Y, Kusakabe M, Ibusuki R, Shibuya K, Suzuki S, Watanabe M, Kuriki K, Takashima N, Kadota A, Katsuura-Kamano S, Arisawa K, Takeuchi K, Wakai K, Grp JMS. Irregular sleep and all-cause mortality: A large prospective cohort study. *Sleep Health*. 2022;8:678-683
38. Otsuka Y, Itani O, Matsumoto Y, Kaneita Y. Associations between Coping Profile and Work Performance in a Cohort of Japanese Employees. *International Journal of Environmental Research and Public Health*. 2022;19:13
39. Otsuka Y, Itani O, Matsumoto Y, Kaneita Y. Associations between coping strategies and insomnia: a longitudinal study of Japanese workers. *Sleep*. 2022;45:10
40. Otsuka Y, Takeshima O, Itani O, Matsumoto Y, Kaneita Y. Associations among Alcohol Drinking, Smoking, and Nonrestorative Sleep: A Population-Based Study in Japan. *Clocks & Sleep*. 2022;4:595-606
41. Saitoh K, Yoshiike T, Kaneko Y, Utsumi T,

- Matsui K, Nagao K, Otsuki R, Aritake-Okada S, Kadotani H, Kuriyama K, Suzuki M. Associations of nonrestorative sleep and insomnia symptoms with incident depressive symptoms over 1-2 years: Longitudinal results from the Hispanic Community Health Study/Study of Latinos and Sueno Ancillary Study. *Depression and anxiety*. 2022;39:419-428
42. Sumi Y, Kadotani H, Ozeki Y. Correlation of Antidepressant Use and Symptom Time Period in Dream Enactment Behaviors. *Mov. Disord. Clin. Pract.* 2022;9:130-131
43. Sumi Y, Masuda F, Kadotani H, Ozeki Y. The prevalence of depression in isolated/idiopathic rapid eye movement sleep behavior disorder: A systematic review and meta-analysis. *Sleep Medicine Reviews*. 2022;65:13
44. Sumi Y, Ubara A, Ozeki Y, Kadotani H. Minor hallucinations in isolated rapid eye movement sleep behavior disorder indicative of early phenoconversion: A preliminary study. *Acta Neurologica Scandinavica*. 2022;145:348-359
45. Uchida T, Fujiwara K, Nishioji K, Kobayashi M, Kano M, Seko Y, Yamaguchi K, Itoh Y, Kadotani H. Medical checkup data analysis method based on LiNGAM and its application to nonalcoholic fatty liver disease. *Artif. Intell. Med.* 2022;128:10
46. Utsumi T, Yoshiike T, Kaneita Y, Aritake-Okada S, Matsui K, Nagao K, Saitoh K, Otsuki R, Shigeta M, Suzuki M, Kuriyama K. The association between subjective-objective discrepancies in sleep duration and mortality in older men. *Scientific reports*. 2022;12:11
47. Hida A, Iida A, Ukai M, Kadotani H, Uchiyama M, Ebisawa T, Inoue Y, Kitamura S, Mishima K. Novel CLOCK and NR1D2 variants in 64 sighted Japanese individuals with non-24-hour sleep-wake rhythm disorder. *Sleep*. 2023;46:3
48. Kawamura A, Yoshiike T, Matsuo M, Kadotani H, Oike Y, Kawasaki M, Kurumai Y, Nagao K, Takami M, Yamada N, Kuriyama K. Comparison of the usability of an automatic sleep staging program via portable 1-channel electroencephalograph and manual sleep staging with traditional polysomnography (Aug, 10.1007/s41105-022-00421-5, 2022). *Sleep and Biological Rhythms*. 2023;21:125-126
49. Kawamura A, Yoshiike T, Matsuo M, Kadotani H, Oike Y, Kawasaki M, Kurumai Y, Nagao K, Takami M, Yamada N, Kuriyama K. Comparison of the usability of an automatic sleep staging program via portable 1-channel electroencephalograph and manual sleep staging with traditional polysomnography. *Sleep and Biological Rhythms*. 2023;21:85-95
50. Kinoshita Y, Itani O, Otsuka Y, Matsumoto Y, Nakagome S, Osaki Y, Higuchi S, Maki J, Kanda H, Kaneita Y. A nationwide cross-sectional study of difficulty waking up for school among adolescents (vol 44, zsab157, 2021). *Sleep*. 2023;46:1
51. Kuimoto N, O'Higashi T, Kadotani H, Ukai S, Yamada M, Kitano M, Kawamoto T, Enomoto H, Hashimoto K, Kurimoto F. Electroconvulsive Therapy Anesthesia Without Raising the Convulsive Threshold With Dexmedetomidine and Remifentanyl. *J. Ect.* 2023;39:117-118
52. Kuwabara Y, Kinjo A, Kim H, Minobe R, Maesato H, Higuchi S, Yoshimoto H, Jike M, Otsuka Y, Itani O, Kaneita Y, Kanda H, Kasuga H, Ito T, Osaki Y. Secondhand Smoke Exposure and Smoking Prevalence Among Adolescents. *JAMA Netw. Open*. 2023;6:13
53. Matsumoto Y, Hino A, Kumadaki K, Itani O, Otsuka Y, Kaneita Y, Vandewalle G. Relationship between Telework Jetlag and Perceived

- Psychological Distress among Japanese Hybrid Workers. *Clocks & Sleep*. 2023;5:604-614
54. Matsumoto Y, Kaneita Y, Itani O, Otsuka Y. Development and validation of the Work Style Reform Scale. *Industrial health*. 2023;61:462-474
55. Matsumoto Y, Kumadaki K, Hino A, Itani O, Otsuka Y, Kaneita Y. Optimal telework frequency in terms of sleep and labor productivity depends on the workers' psychological distress: A cross-sectional study in Tokyo, Japan. *PloS one*. 2023;18:14
56. Nakajima S, Kaneko Y, Fujii N, Kizuki J, Saitoh K, Nagao K, Kawamura A, Yoshiike T, Kadotani H, Yamada N, Uchiyama M, Kuriyama K, Suzuki M. Transdiagnostic association between subjective insomnia and depressive symptoms in major psychiatric disorders. *Front. Psychiatry*. 2023;14:10
57. Ogawa Y, Itani O, Jike M, Watanabe N. Psychosocial Interventions for Employment of Individuals with Autism Spectrum Disorder: a Systematic Review and Meta-analysis of Randomized Clinical Trials. *Rev J Autism Dev Dis*. 2023;10:38-50
58. Okajima I, Kadotani H, NinJa Sleep Study G. Association of Sleep Reactivity and Anxiety Sensitivity with Insomnia-Related Depression and Anxiety among City Government Employees in Japan. *Clocks & Sleep*. 2023;5:167-176
59. Omichi C, Kadotani H, Sumi Y, Ubara A, Nishikawa K, Matsuda A, Tsovoosed U, Ozeki Y. COMPARISON OF OBJECTIVE AND SUBJECTIVE SLEEP EVALUATIONS BASED ON WITH OR WITHOUT INSOMNIA SYMPTOMS AMONG JAPANESE CITY EMPLOYEES. *Sleep*. 2023;46:1
60. Otsuka Y, Itani O, Nakajima S, Kaneko Y, Suzuki M, Kaneita Y. Impact of chronotype, insomnia symptoms, sleep duration, and electronic devices on nonrestorative sleep and daytime sleepiness among Japanese adolescents. *Sleep Med*. 2023;110:36-43
61. Otsuka Y, Kaneita Y, Itani O, Matsumoto Y. A School-Based Program for Problematic Internet Use for Adolescents in Japan. *Children-Basel*. 2023;10:11
62. Otsuka Y, Kaneita Y, Itani O, Matsumoto Y. The Japanese Youth Version of the Smartphone Addiction Scale Among the Youth in Japan: Reliability and Validity Assessment. *International Journal of Mental Health and Addiction*. 2023;21:292-307
63. Otsuka Y, Kaneita Y, Itani O, Matsumoto Y, Hatori Y, Imamura S. Awareness, Attitudes, and Concerns Regarding Heated Tobacco Products Among Physicians in Japan. *Journal of Epidemiology*. 2023;33:9
64. Otsuka Y, Kaneita Y, Tanaka K, Itani O, Kaneko Y, Suzuki M, Matsumoto Y, Kuriyama K. Nonrestorative sleep is a risk factor for metabolic syndrome in the general Japanese population. *Diabetol. Metab. Syndr*. 2023;15:9
65. Otsuka Y, Kaneita Y, Tanaka K, Itani O, Matsumoto Y, Kuriyama K. Longitudinal assessment of lifestyle factors associated with nonrestorative sleep in Japan. *Sleep Med*. 2023;101:99-105
66. Otsuka Y, Kinjo A, Kaneita Y, Itani O, Kuwabara Y, Minobe R, Maesato H, Higuchi S, Kanda H, Yoshimoto H, Jike M, Kasuga H, Ito T, Osaki Y. Comparison of the responses of cross-sectional web- and paper-based surveys on lifestyle behaviors of Japanese adolescents. *Prev. Med. Rep*. 2023;36:7
67. Otsuka Y, Takeshima O, Itani O, Kaneko Y, Suzuki M, Matsumoto Y, Kaneita Y. Trends and

- socioeconomic inequities in insomnia-related symptoms among Japanese adults from 1995 to 2013. *Journal of affective disorders*. 2023;323:540-546
68. Saitoh K, Yoshiike T, Kaneko Y, Utsumi T, Matsui K, Nagao K, Kawamura A, Otsuki R, Otsuka Y, Aritake-Okada S, Kaneita Y, Kadotani H, Kuriyama K, Suzuki M. The effect of nonrestorative sleep on incident hypertension 1-2 years later among middle-aged Hispanics/Latinos. *BMC public health*. 2023;23:15
69. Thannickal TC, Kadotani H. Editorial: Emerging talents in: sleep disorders. *Frontiers in neurology*. 2023;14:2
70. Yoshida K, Kanda H, Hisamatsu T, Kuwabara Y, Kinjo A, Yoshimoto H, Ito T, Kasuga H, Minobe R, Maesato H, Jike M, Matsumoto Y, Otsuka Y, Itani O, Kaneita Y, Higuchi S, Osaki Y. Association and dose-response relationship between exposure to alcohol advertising media and current drinking: a nationwide cross-sectional study of Japanese adolescents. *Environmental health and preventive medicine*. 2023;28:9
71. Kadotani H. Iris color and autonomic nerve activity. *Sleep and Biological Rhythms*. 2024;22:161-161
72. Otsuka Y, Kaneita Y, Itani O, Nakajima S. Prevalence, knowledge, and concerns regarding the use of heated tobacco products and electronic cigarettes among young Japanese physicians. *Tobacco Induced Diseases*. 2024;22:1
73. 井谷 修, 地家 真紀, 渡辺 範雄, 兼板 佳孝. 【長・短時間睡眠の背景と臨床】短時間睡眠とその健康への影響. *ねむりとマネジメント*. 2021;8:4-7
74. 角 幸頼, 尾関 祐二, 角谷 寛. 睡眠障害の神経治療学 レム睡眠行動障害の神経治療学. *神経治療学*. 2021;38:508-511
75. 角谷 寛. 睡眠障害の神経治療学 睡眠時無呼吸の神経治療学. *神経治療学*. 2021;38:495-498
76. 兼板 佳孝, 今村 聡, 羽鳥 裕, 井谷 修, 大塚 雄一郎, 松本 悠貴. 2020 年日本医師会員の喫煙習慣と喫煙に対する意識と態度に関する調査. *日本医師会雑誌*. 2021;150:690-696
77. 松本 悠貴, 内村 直尚. 【朝まで待てない!夜間頻尿完全マスター】夜間頻尿の疫学と病態 睡眠障害(不眠症)による夜間頻尿の病態. *臨床泌尿器科*. 2021;75:28-31
78. 大塚 雄一郎. COVID-19 COVID-19 と疫学. *日大医学雑誌*. 2021;80:101-105
79. 大槻 怜, 鈴木 正泰. 【ピットフォールから学ぶ 睡眠薬の適正使用】非ベンゾジアゼピン系・ベンゾジアゼピン系睡眠薬 奇異反応. *薬事*. 2021;63:1070-1074
80. 大道 智恵, 角谷 寛. 睡眠と自律神経 睡眠と呼吸機能. *自律神経*. 2021;58:231-234
81. 地家 真紀, 兼板 佳孝, 井谷 修, 渡辺 範雄. 【長・短時間睡眠の背景と臨床】長時間睡眠の疫学と健康. *ねむりとマネジメント*. 2021;8:8-11
82. 中田 ゆかり, 柴田 英治, 角谷 寛. 就寝時の「快眠音」が不眠症疑いの労働者への睡眠潜時に与える影響. *厚生*の指標. 2021;68:1-7
83. 渡辺 範雄. 【精神医療に関する疫学のトピック-記述疫学, リスク研究からコホート研究まで】精神医学における治療・予防介入に焦点を当てた観察研究. *精神医学*. 2021;63:453-458
84. 角 幸頼, 角谷 寛. 【中枢性自律神経障害 update】睡眠障害と自律神経障害. *BRAIN and NERVE: 神経研究の進歩*. 2022;74:0279-0282
85. 角谷 寛. 【ICD-11 が精神科臨床に与えるインパクト】睡眠・覚醒障害. *臨床精神医学*. 2022;51:439-444
86. 角谷 寛. 【2022 年 医療展望】不眠症 COVID-19 が人々の生活スタイルと心理に与えた影響. *クリニシアン*. 2022;69:8-13

87. 角谷 寛. 【高齢患者の精神科コンサルテーション・リエゾン(CLP)】身体疾患に伴う不眠. 老年精神医学雑誌. 2022;33:25-28
88. 高橋 諒, 大槻 怜, 金子 宜之, 斎藤 かおり, 内山 真, 鈴木 正泰. 睡眠障害ケースカンファレンス(第 64 回) 日中の突然の居眠りを主訴に受診し,側頭葉てんかんと診断された一例. 睡眠医療. 2022;16:431-435
89. 松田 有史, 角谷 寛. 【睡眠呼吸障害(SDB)と認知症】SDB の認知症への影響 初期の認知機能低下と SDB. 睡眠医療. 2022;16:151-154
90. 大塚 雄一郎. 【最近の疫学】ライフステージ別の睡眠疫学. ファルマシア. 2022;58:763-767
91. 大塚 雄一郎. 【働く人々の睡眠改革-健康と安全の確保のために】産業保健の視点から見た睡眠に関する課題と解決策. 公衆衛生. 2022;86:4-11
92. 大槻 怜, 鈴木 正泰. 【精神・神経疾患に併存する過眠の背景病態と治療マネジメント】気分障害に併存する過眠. 精神医学. 2022;64:1339-1346
93. 大槻 怜, 鈴木 正泰. 【臨床医が一度は考えてみたい治療終結のポイント】抗不安薬・睡眠薬の中止・休薬のエッセンスと最新のエビデンス. 精神科. 2022;40:673-679
94. 渡辺 範雄. 成人うつ病患者の治療予後に関する社会経済的指標 系統的レビューと個別被験者データ(IPD)を用いたメタ解析. 精神科臨床 Legato. 2022;8:120-122
95. 渡辺 範雄. 【不眠症-研究・診療の最新知識】不眠症の最新治療 不眠症の非薬物療法. 医学のあゆみ. 2022;281:1041-1044
96. 鈴木 正泰, 大槻 怜, 金子 宜之. 【不眠症-研究・診療の最新知識】不眠症の最新治療 不眠症の新世代治療. 医学のあゆみ. 2022;281:1045-1047
97. 加藤 駿一, 井谷 修, 松本 悠貴, 大塚 雄一郎, 兼板 佳孝, 成田 岳, 羽田 泰晃, 根本 謙, 稲葉 理, 松村 穰, 八坂 剛一, 田口 茂正, 清田 和也. 目撃の無い院外心停止症例における予後予測因子の同定 後方視的研究. 日大医学雑誌. 2023;82:155-159
98. 角谷 寛. 【精神科領域における生活習慣病の予防と改善-日常診療で役立つポイント-】睡眠障害と生活習慣病との関連について. 精神科治療学. 2023;38:1013-1016
99. 角谷 寛. 【体内時計の precision medicine】体内時計と睡眠覚醒. Precision Medicine. 2023;6:342-345
100. 兼板 佳孝. 【睡眠学の発展によせて】睡眠公衆衛生. 睡眠医療. 2023;17:445-449
101. 兼板 佳孝. 産業医実務に生かせる提言 睡眠をめぐる近年の知見と職域での対応 睡眠と健康 産業医学の観点から. 産業医学ジャーナル. 2023;46:55-60
102. 大塚 雄一郎, 兼板 佳孝. 【夜間頻尿-診断と最新治療】睡眠障害による夜間頻尿の病態. 日本医師会雑誌. 2023;152:979-983
103. 大塚 雄一郎, 兼板 佳孝. 【睡眠障害-「眠れない」をどう診るか-】睡眠障害の疫学. アニムス. 2023;28:13-18
104. 大塚 雄一郎, 中神 朋子. 【-自信がもてるようになる!-エビデンスに基づく「糖尿病診療」大全-新薬からトピックスまで】(II 章)基本が大事!ちゃんとできてる?"おさらい"糖尿病診療 「耐糖能異常」の段階で行うべき指導と治療. 総合診療. 2023;33:326-328
105. 大槻 怜, 金子 宜之, 鈴木 正泰. コロナ禍でみられた睡眠の問題とその対策について. 日大医学雑誌. 2023;82:127-128
106. 渡辺 範雄. 【双極性障害診療の正しい進め方 ガイドラインをどう使いこなすのか】エビデンスの診療ガイドラインへの適用方法 EtD フレームワーク. 臨床精神医学. 2023;52:835-840

G-2. 学会発表

1. 大塚雄一郎, 井谷修, 松本悠貴, 城戸尚治, 兼板佳孝. 労働者における在宅勤務状況と睡眠との関連性の検討. 第94回日本産業衛生学会, 松本, 2021. 5
2. 福水道郎, 長尾ゆり, 野崎真紀, 上東雅子, 小島泰子, 木村一恵, 星野恭子, 林雅晴, 中川栄二, 松井健太郎, 都留あゆみ, 大槻怜, 長尾賢太郎, 吉池卓也, 栗山健一. ADHDの周辺にある併存症について理解を深める 注意欠陥多動性障害(ADHD)と睡眠障害. 第63回日本小児神経学会学術集会, 福岡, 2021. 5
3. 福水道郎, 野崎真紀, 長尾ゆり, 上東雅子, 小島泰子, 木村一恵, 星野恭子, 林雅晴, 中川栄二, 松井健太郎, 都留あゆみ, 大槻怜, 長尾賢太郎, 吉池卓也, 栗山健一. 小児睡眠障害の治療. 第63回日本小児神経学会学術集会, 福岡, 2021. 5
4. 渡辺範雄. 不眠の認知行動療法. 第18回日本うつ病学会総会・第21回日本認知療法・認知行動療法学会, 横浜, 2021. 7
5. 降籙隆二, 大槻怜, 長谷川尚美, 坪井貴嗣, 沼田周助, 古郡規雄, 伊賀淳一, 山田恒, 市橋香代, 松本純弥, 三浦健一郎, 稲田健, 渡邊衡一郎, 橋本亮太. うつ病入院患者における睡眠薬処方の実態と他の向精神薬処方との関連. 第18回日本うつ病学会総会・第21回日本認知療法・認知行動療法学会, 横浜, 2021. 7
6. 井谷修. 睡眠時間及び睡眠の質 (PSQI) と健康との関連 (シンポジウム: 健康・長寿を目指した新たな睡眠指標の開発). 第46回日本睡眠学会定期学術集会, 福岡, 2021. 9
7. 松本悠貴, 内村直尚, 石竹達也, 井谷修, 大塚雄一郎. 日勤労働者における希死念慮の予測因子として2つの睡眠尺度を検証した縦断研究. 第46回日本睡眠学会定期学術集会, 福岡, 2021. 9
8. 伊藤結生, 竹島正浩, 兼板佳孝, 内村直尚, 井上雄一, 本多真, 山寺亘, 渡辺範雄, 北村真吾, 岡島義, 綾部直子, 南園佐知子, 野村恭子, 三島和夫. 東日本大震災2011による日本人の睡眠及びメンタルヘルスへの影響. 第46回日本睡眠学会定期学術集会, 福岡, 2021. 9
9. 鈴木正泰, 斎藤かおり, 吉池卓也, 金子宜之, 内海智博, 松井健太郎, 長尾賢太郎, 大槻怜, 有竹清夏, 角谷寛, 栗山健一. 健康・長寿を目指した新たな睡眠指標の開発 睡眠休養感と精神健康との関連. 第46回日本睡眠学会定期学術集会, 福岡, 2021. 9
10. 斎藤かおり, 吉池卓也, 金子宜之, 大槻怜, 内海智博, 長尾賢太郎, 松井健太郎, 有竹清夏, 角谷寛, 栗山健一, 鈴木正泰. 睡眠による休養感の欠如と高血圧発症との縦断的関連 既存コホートデータ (HCHS/SOL)による検討. 第46回日本睡眠学会定期学術集会, 福岡, 2021. 9
11. 森田えみ, 山田尚登, 角谷寛, 若井建志. Per3 VNTR 遺伝子多型と乳がん罹患歴との関連 J-MICC Study 大幸研究. 第46回日本睡眠学会定期学術集会, 福岡, 2021. 9
12. 角幸頼, 乳原彩香, 宮本都和, 須藤智志, 尾関祐二, 角谷寛. レム睡眠行動障害における軽症幻覚(minor hallucination)は神経変性疾患への進展のリスク因子. 第46回日本睡眠学会定期学術集会, 福岡, 2021. 9
13. 藤原幸一, 後藤有貴, 角幸頼, 加納学, 角谷寛. 睡眠脳波に基づく日中の疲労と眠気の鑑別に関する調査. 第46回日本睡眠学会定期学術集会, 福岡, 2021. 9
14. 小枝正汰, 藤原幸一, 木下貴文, 角幸頼, 角谷寛, 山木清志, 森島守人, 川嶋隆宏.

- SST-RUS を用いた睡眠脳波解析による異なる音環境下でのスピンドル出現の評価. 第46回日本睡眠学会定期学術集会, 福岡, 2021. 9
15. 王歩雲, 岩崎絢子, 藤原幸一, 永元哲治, 角幸頼, 加納学, 井関邦敏, 名嘉村博, 角谷寛. 畳み込みニューラルネットワークを用いた睡眠時無呼吸症候群スクリーニング. 第46回日本睡眠学会定期学術集会, 福岡, 2021. 9
 16. 宮本都和, 角幸頼, 須藤智志, 角谷寛, 尾関祐二, 今井眞. 頭内爆発音に先行するカップ律動の変動を認めた症例. 第46回日本睡眠学会定期学術集会, 福岡, 2021. 9
 17. 大道智恵, 乳原彩香, 角幸頼, 伊藤一樹, 松田有史, 宮本都和, 角谷寛. 滋賀医大の睡眠外来患者における新型コロナウイルスによる外出自粛と不眠、眠気、抑うつとの関係. 第46回日本睡眠学会定期学術集会, 福岡, 2021. 9
 18. 福水道郎, 野崎真紀, 小島泰子, 長尾ゆり, 木村一恵, 星野恭子, 林雅晴, 中川栄二, 松井健太郎, 都留あゆみ, 大槻怜, 伊豆原宗人, 長尾賢太朗, 河村葵, 木村綾乃, 三好智佳子, 内海智博, 羽澄恵, 綾部直子, 吉池卓也, 栗山 健一, Hayes Marie. 睡眠障害を Long Life Disorder として考える 小児期の睡眠問題とその影響 成長発達と神経発達症、起立性調節障害、睡眠時無呼吸症候群、概日リズム障害. 第46回日本睡眠学会定期学術集会, 福岡, 2021. 9
 19. 羽澄恵, 吉池卓也, 松井健太郎, 長尾賢太朗, 都留あゆみ, 大槻怜, 綾部直子, 内海智博, 栗山健一. COVID-19 パンデミックと不眠障害における不眠症状と不安症状の関係性の変化. 第46回日本睡眠学会定期学術集会, 福岡, 2021. 9
 20. 吉池卓也, 内海智博, 松井健太郎, 長尾賢太朗, 齋藤かおり, 大槻怜, 有竹清夏, 鈴木正泰, 栗山健一. 中年・高齢世代における睡眠休養感、客観的睡眠時間、床上時間と総死亡の関連. 第46回日本睡眠学会定期学術集会, 福岡, 2021. 9
 21. 吉池卓也, 河村葵, 堀口涼子, 内海智博, 松井健太郎, 長尾賢太朗, 都留あゆみ, 大槻怜, 綾部直子, 羽澄恵, 伊豆原宗人, 北村真吾, 栗山健一. 米国地域住民における不眠症、うつ病、不安症の既往と炎症の関連. 第46回日本睡眠学会定期学術集会, 福岡, 2021. 9
 22. 都留あゆみ, 松井健太郎, 木村綾乃, 大槻怜, 長尾賢太朗, 内海智博, 山元健太郎, 福水道郎, 吉池卓也, 栗山健一. パーキンソン病患者の健康関連 QOL に関連する睡眠関連指標の検討. 第46回日本睡眠学会定期学術集会, 福岡, 2021. 9
 23. 福本裕, 川辺裕文, 松井健太郎, 都留あゆみ, 大槻怜, 長尾賢太朗, 吉池卓也, 栗山健一. 下顎隆起が閉塞性睡眠時無呼吸症候群に与える影響について. 第46回日本睡眠学会定期学術集会, 福岡, 2021. 9
 24. 内海智博, 吉池卓也, 有竹清夏, 松井健太郎, 長尾賢太朗, 都留あゆみ, 大槻怜, 綾部直子, 羽澄恵, 齋藤かおり, 鈴木正泰, 栗山健一. 一般高齢男性における睡眠時間の過大評価と総死亡リスクの関連. 第46回日本睡眠学会定期学術集会, 福岡, 2021. 9
 25. 松井健太郎, 吉池卓也, 長尾賢太朗, 内海智博, 都留あゆみ, 大槻 怜, 綾部直子, 羽澄恵, 鈴木正泰, 齋藤かおり, 有竹清夏, 井上雄一, 栗山健一. 一般人口における主観的な睡眠の質的/量的評価が Quality of Life に及ぼす影響 不眠症状の媒介的役割を考慮して. 第46回日本睡眠学会定期学術集会, 福岡, 2021. 9

26. 長尾賢太郎, 吉池卓也, 齋藤かおり, 松井健太郎, 内海智博, 大槻怜, 河村葵, 有竹清夏, 鈴木正泰, 内山真, 栗山健一. 一般成人における睡眠休養感の背景因子の検討. 第46回日本睡眠学会定期学術集会, 福岡, 2021. 9
27. 河村葵, 吉池卓也, 松井健太郎, 羽澄恵, 都留あゆみ, 長尾賢太郎, 大槻怜, 内海智博, 伊豆原宗人, 綾部直子, 栗山健一. COVID-19 流行下におけるデジタル機器使用頻度は流行後の起床時刻変化を介し健康感に影響する. 第46回日本睡眠学会定期学術集会, 福岡, 2021. 9
28. 大槻怜, 松井健太郎, 都留あゆみ, 伊豆原宗人, 長尾賢太郎, 河村葵, 内海智博, 羽澄恵, 綾部直子, 山元健太郎, 福水道郎, 吉池卓也, 栗山健一. 概日リズム睡眠・覚醒障害(CRSWD)患者における COVID-19 流行拡大に伴う症状変化/増悪要因の検討. 第46回日本睡眠学会定期学術集会, 福岡, 2021. 9
29. 綾部直子, 松井健太郎, 吉池卓也, 長尾賢太郎, 都留あゆみ, 大槻怜, 羽澄恵, 内海智博, 山元健太郎, 福水道郎, 伊豆原宗人, 栗山健一. COVID-19 流行下における気晴らし行動の変化が ADHD 傾向を伴う医療従事者の睡眠に及ぼす影響. 第46回日本睡眠学会定期学術集会, 福岡, 2021. 9
30. 遠藤麻貴子, 倉内剛, 大平香織, 後藤桃子, 佐藤裕美, 小関敦, 今清覚, 渡辺範雄, 菅原典夫, 森まどか, 高田博仁, 木村円, 木村円. 筋強直性ジストロフィー1型患者の Quality of Life と介護負担, その関連因子. 第62回日本神経学会学術大会, 京都, 2021. 9
31. 齋藤かおり, 吉池卓也, 大槻怜, 金子宜之, 内海智博, 長尾賢太郎, 松井健太郎, 有竹清夏, 角谷寛, 栗山健一, 鈴木正泰. 睡眠による休養感の欠如とうつ病発症リスクとの関連. 第117回日本精神神経学会学術総会, 京都, 2021. 9
32. 大槻怜, 松井健太郎, 吉池卓也, 都留あゆみ, 長尾賢太郎, 綾部直子, 羽澄恵, 内海智博, 山元健太郎, 福水道郎, 栗山健一. COVID-19 流行下での医療関係者における不眠症状と睡眠・覚醒リズム/社会的ジェットラグの関連. 第117回日本精神神経学会学術総会, 京都, 2021. 9
33. 内海智博, 吉池卓也, 有竹清夏, 松井健太郎, 長尾賢太郎, 都留あゆみ, 大槻怜, 福水道郎, 山元健太郎, 綾部直子, 羽澄恵, 齋藤かおり, 鈴木正泰, 栗山健一. 一般高齢男性における不眠、睡眠時間の誤認、およびレム睡眠出現率と総死亡リスクの関連. 第117回日本精神神経学会学術総会, 京都, 2021. 9
34. 降旗隆二, 大槻怜, 長谷川尚美, 三浦健一郎, 松本純弥, 坪井貴嗣, 沼田周助, 古郡規雄, 伊賀淳一, 山田恒, 市橋香代, 渡邊衡一郎, 稲田健, 橋本亮太. 睡眠薬処方の実態と多剤処方の関連要因 統合失調症とうつ病患者の処方データの分析. 第117回日本精神神経学会学術総会, 京都, 2021. 9
35. 羽澄恵, 松井健太郎, 吉池卓也, 都留あゆみ, 大槻怜, 長尾賢太郎, 綾部直子, 内海智博, 山元健太郎, 福水道郎, 栗山健一. COVID-19 治療従事経験の有無による医療関係者の精神健康関連要因の相違. 第117回日本精神神経学会学術総会, 京都, 2021. 9
36. 松井健太郎, 吉池卓也, 都留あゆみ, 大槻怜, 長尾賢太郎, 綾部直子, 羽澄恵, 内海智博, 山元健太郎, 福水道郎, 栗山健一. COVID-19 の流行がわが国の医療関係者の心理的健康に与える影響. 第117回日本

- 精神神経学会学術総会, 京都, 2021. 9
37. 綾部直子, 松井健太郎, 吉池卓也, 長尾賢太朗, 都留あゆみ, 大槻怜, 羽澄恵, 内海智博, 山元健太郎, 福水道郎, 栗山健一. ADHD/ASD 傾向と COVID-19 流行下における気晴らし行動の変化が不眠に及ぼす影響. 第 117 回日本精神神経学会学術総会, 京都, 2021. 9
38. 大道智恵, 角谷寛, 宮本都和, 乳原彩香, 松田有史, 伊藤一樹, 角幸頼, 森田幸代, 吉村篤, 藤井久彌子, 尾関祐二. 睡眠外来患者における二質問票のうつ病判定精度に関する検討. 第 34 回日本総合病院精神医学会総会, オンライン開催, 2021. 11
39. 松島えり子, 大塚雄一郎, 井谷修, 松本悠貴, 兼板佳孝. 思春期における夜間頻尿と睡眠問題の関連: 中高一貫校の生徒を対象とした質問紙調査. 第 80 回日本公衆衛生学会総会, 東京, 2021. 12
40. 桑原祐樹, 金城文, 藤井麻耶, 尾崎米厚, 真栄里仁, 美濃部るり子, 吉本尚, 大塚雄一郎, 井谷修, 兼板佳孝, 地家真紀, 神田秀幸. 産業保健の現場における減酒支援ブリーフインターベンションの飲酒量改善への効果. 第 80 回日本公衆衛生学会総会, 東京, 2021. 12
41. 大塚雄一郎, 井谷修, 松本悠貴, 兼板佳孝. 若手医師における加熱式タバコ・電子タバコの認知、知識および懸念に関する検討. 第 80 回日本公衆衛生学会総会, 東京, 2021. 12
42. 角谷寛, 大道智恵, 角幸頼, 乳原彩香, 西川公平, 松田有史, 尾関祐二. 新型コロナウイルスによる、市職員のメンタルヘルスの変化 Nin Ja Sleep Study. 第 95 回日本産業衛生学会, 2022.5
43. 松本悠貴, 熊懐邦高, 日野亜弥子, 井谷修, 大塚 雄一郎, 兼板佳孝. テレワークの頻度の違いによる不眠症状、労働意欲、労働生産性の差の検討. 第 95 回日本産業衛生学会, 高知, 2022.5
44. 大塚雄一郎, 原野悟, 城戸尚治, 松本悠貴, 井谷修, 兼板佳孝. テレワーク労働者における実施行動と労働生産性・ワーク・エンゲージメントの関連. 第 95 回日本産業衛生学会, 高知, 2022.5
45. 伊達俊坪, 藤原幸一, 角幸頼, 角谷寛, 今井 眞, 小川 景子. レム睡眠行動障害におけるデルタ・ガンマ帯域パワー値の増大は夢内容行動化と関連する. 日本睡眠学会第 47 回定期学術集会, 京都, 2022.6
46. 井谷修. 産業保健領域における睡眠問題を考える～職種・対象者別のアプローチ～工場労働者を対象とした睡眠とプレゼンティーズムの関係について. 日本睡眠学会第 47 回定期学術集会, 京都, 2022.6
47. 角幸頼, 今井眞, 尾関祐二, 角谷寛. 頭内爆発音症候群の病態と治療へのアプローチ 頭内爆発音に先行する特徴的な側頭部脳波活動 電気生理学的アプローチ. 日本睡眠学会第 47 回定期学術集会, 京都, 2022.6
48. 角幸頼, 増田史, 角谷寛, 尾関祐二. 孤発性(isolated)レム睡眠行動障害では罹病期間が短いほど抑うつ症状が強い 系統的レビューとメタ解析. 日本睡眠学会第 47 回定期学術集会, 京都, 2022.6
49. 角谷寛. 産業保健領域における睡眠問題を考える～職種・対象者別のアプローチ～公務員へのソーシャルサポートと不眠・抑うつとの関係. 日本睡眠学会第 47 回定期学術集会, 京都, 2022.6
50. 兼板佳孝. 睡眠公衆衛生 疫学研究と実践活動. 日本睡眠学会第 47 回定期学術集会, 京都, 2022.6
51. 降籟隆二, 立山由紀子, 中神由香子, 梁瀬

- まや, 赤星俊樹, 井谷修, 兼板佳孝, バイシー・ダニエル. RU-SATED 日本語版の妥当性と信頼性の検証. 日本睡眠学会第 47 回定期学術集会, 京都, 2022.6
52. 松本悠貴, 日野亜弥子, 熊懷邦高, 内村直尚, 井谷修, 大塚雄一郎, 兼板佳孝. テレワーク頻度と電子端末の使用時間別にみた睡眠時間と睡眠位相の差の検証. 日本睡眠学会第 47 回定期学術集会, 京都, 2022.6
53. 青木裕見, 高江洲義和, 鈴木正泰, 岡島義, 竹島正浩, 志村哲祥, 内海智博, 小鳥居望, 山下英尚, 栗山健一, 渡辺範雄, 三島和夫. ベンゾジアゼピン系睡眠薬の継続・中止を共同意思決定で決めるための Decision Aid の開発. 日本睡眠学会第 47 回定期学術集会, 京都, 2022.6
54. 相楽愛子, 栗津和子, 小西克彦, 鯉江賢二, 鐘ヶ江宏美, 寺脇裕子, 山田徳恵, 松田有史, 角幸頼, 角谷寛. 小児の CPAP タイトレーションを要した 1 例. 日本睡眠学会第 47 回定期学術集会, 京都, 2022.6
55. 大塚雄一郎. 睡眠休養感と関連する睡眠障害・環境・行動要因 睡眠休養感に影響しうる習慣行動. 日本睡眠学会第 47 回定期学術集会, 京都, 2022.6
56. 大塚雄一郎, 井谷修, 松本悠貴, 兼板佳孝. テレワーク労働者におけるリカバリー経験と睡眠障害との関連. 日本睡眠学会第 47 回定期学術集会, 京都, 2022.6
57. 大槻怜, 松井健太郎, 都留あゆみ, 長尾賢太郎, 内海智博, 羽澄恵, 綾部直子, 福水道郎, 吉池卓也, 鈴木正泰, 栗山健一. COVID-19 感染拡大下における医療従事者の希死念慮と関連する睡眠習慣. 日本睡眠学会第 47 回定期学術集会, 京都, 2022.6
58. 大道智恵, 角谷寛, 角幸頼, 乳原彩香, 西川公平, 松田有史, 尾関祐二. 市職員を対象とした自宅での 1ch 脳波測定における主観的・客観的な睡眠の評価の検討. 日本睡眠学会第 47 回定期学術集会, 京都, 2022.6
59. 長尾賢太郎, 吉池卓也, 河村葵, 松井健太郎, 岡邨しのぶ, 内海智博, 都留あゆみ, 大槻怜, 伊豆原宗人, 篠崎未生, 羽澄恵, 栗山健一. 睡眠・覚醒相後退障害の入院治療と寛解維持の関連因子. 日本睡眠学会第 47 回定期学術集会, 京都, 2022.6
60. 土器屋美貴子, 井谷修, 大塚雄一郎, 兼板佳孝. 高校生における睡眠障害の予測因子. 日本睡眠学会第 47 回定期学術集会, 京都, 2022.6
61. 内海智博, 吉池卓也, 有竹清夏, 松井健太郎, 長尾賢太郎, 都留あゆみ, 大槻怜, 綾部直子, 羽澄恵, 斎藤かおり, 鈴木正泰, 栗山健一. 高齢男性における睡眠時間の主観 客観乖離と総死亡の関連解析. 日本睡眠学会第 47 回定期学術集会, 京都, 2022.6
62. 伊豆原宗人, 松井健太郎, 吉池卓也, 長尾賢太郎, 河村葵, 都留あゆみ, 大槻怜, 内海智博, 高橋恵理矢, 羽澄恵, 篠崎未生, 大久保亮, 三山健司, 栗山健一. COVID-19 関連ストレス・予防行動と睡眠の関係. 第 118 回日本精神神経学会学術総会, 福岡, 2022.9
63. 大槻怜, 降籬隆二, 長谷川尚美, 中村敏範, 古郡規雄, 小高文聰, 堀輝, 坪井貴嗣, 沼田周助, 柏木宏子, 松本純弥, 三浦健一郎, 稲田健, 渡邊衡一郎, 鈴木正泰, 橋本亮太. 日本のうつ病入院治療における睡眠薬処方率の施設間の違いとその関連要因. 第 118 回日本精神神経学会学術総会, 福岡, 2022.9
64. 中村敏範, 降籬隆二, 長谷川尚美, 大槻怜, 古郡規雄, 坪井貴嗣, 越智紳一郎, 市橋香代, 山田恒, 渡邊衡一郎, 三浦健一郎, 松

- 本純弥, 稲田健, 鷺塚伸介, 橋本亮太. 統合失調症患者の入院治療における睡眠薬増減の関連要因 全国調査の分析. 第 118 回日本精神神経学会学術総会, 福岡, 2022.9
65. 長尾賢太郎, 吉池卓也, 松井健太郎, 河村葵, 都留あゆみ, 内海智博, 大槻怜, 伊豆原宗人, 大久保亮, 三山健司, 中込 和幸, 栗山 健一. COVID-19 パンデミック下における健康不安と感染予防行動の関連. 第 118 回日本精神神経学会学術総会, 福岡, 2022.9
66. 内海智博, 吉池卓也, 有竹清夏, 松井健太郎, 河村葵, 長尾賢太郎, 都留あゆみ, 大槻怜, 綾部直子, 羽澄恵, 斎藤かおり, 鈴木正泰, 栗山健一. ピッツバーグ睡眠質問票の基本構造と構成要因の同定. 第 118 回日本精神神経学会学術総会, 福岡, 2022.9
67. 春日秀朗, 金城文, 兼板佳孝, 神田秀幸, 井谷修, 真栄里仁, 地家 真紀, 吉本尚, 伊藤央奈, 大塚雄一郎, 美濃部るり子, 桑原祐樹, 尾崎米厚. 女性の多量飲酒につながる要因についての質的分析 成人女性に対するインタビューから. 第 81 回公衆衛生学会総会, 山梨, 2022.10
68. 大塚雄一郎, 兼板佳孝, 松本悠貴, 井谷修. 高校生に対する保健教育がインターネット問題使用に及ぼす効果の検討. 第 81 回公衆衛生学会総会, 山梨, 2022.10
69. 吉田 啓太, 神田 秀幸, 久松 隆史, 桑原祐樹, 金城 文, 吉本 尚, 伊藤 央奈, 春日秀朗, 美濃部 るり子, 真栄里 仁, 地家 真紀, 松本 悠貴, 大塚 雄一郎, 井谷 修, 兼板 佳孝, 樋口 進, 尾崎 米厚. 中高生全国調査による酒類広告の曝露と月飲酒の関連. 第 34 回日本疫学会学術総会, 滋賀, 2023.1
70. 内海 智博, 吉池 卓也, 兼板 佳孝, 有竹清夏, 松井 健太郎, 河村 葵, 長尾 賢太郎, 繁田 雅弘, 鈴木 正泰, 栗山 健一. 地域一般高齢男性における睡眠時間の主観-客観乖離と健康転帰との縦断的関連. 第 38 回日本老年精神医学会, 横浜, 2023.6
71. 角 幸頼, 角谷 寛. 心拍変動自律神経バイオマーカー:工学と精神医学のクロストーク レビー小体病における自律神経障害に対する心拍変動の応用 起立性低血圧の発生子予測. 第 119 回日本精神神経学会学術総会, 横浜, 2023.6
72. 金子 宜之, 斎藤 かおり, 大槻 怜, 藤井伸邦, 早乙女 優太, 鈴木 正泰. 統合失調症の睡眠研究の現在-最近のトピックスと臨床への展開- 統合失調症でみられる睡眠の問題と臨床経過との関連. 第 119 回日本精神神経学会学術総会, 横浜, 2023.6
73. 金子 宜之, 斎藤 かおり, 大槻 怜, 藤井伸邦, 鈴木 貴浩, 鈴木 正泰. 睡眠からみた AYA 世代における精神障害とその予防 睡眠医学をふまえた統合失調症の予防に関する新たな展望. 第 119 回日本精神神経学会学術総会, 横浜, 2023.6
74. 植村 哲也, 金子 宜之, 上村 宗平, 小嶋悠太, 小宮 志の, 趙 純玉, 大槻 怜, 村田沙樹子, 斎藤 かおり, 金森 正, 溝口 知孝, 秋元 高義, 中嶋 秀人, 鈴木 正泰. 脊髄小脳変性症 3 型を合併した統合失調症の 1 例. 第 119 回日本精神神経学会学術総会, 横浜, 2023.6
75. 遠藤 麻貴子, 倉内 剛, 大平 香織, 後藤桃子, 佐藤 裕美, 小関 敦, 今 清覚, 渡辺範雄, 菅原 典夫, 森 まどか, 中村 治雅, 高田 博仁, 木村 円. 筋強直性ジストロフィー患者と介護者のための心理社会的支援プログラム研究 現況報告. 第 9 回日本筋学会学術集会/第 10 回筋ジストロフィー医療研究会, 大阪, 2023.8

76. 倉内 剛, 遠藤 麻貴子, 大平 香織, 後藤 桃子, 佐藤 裕美, 小関 敦, 今 清覚, 渡辺 範雄, 菅原 典夫, 森 まどか, 中村 治雅, 木村 円, 高田 博仁. 筋強直性ジストロフィー1型患者の心理・社会的アプローチ 活動性部分について. 第9回日本筋学会学術集会/第10回筋ジストロフィー医療研究会, 大阪, 2023.8
77. 伊豆原 宗人, 松井 健太郎, 吉池 卓也, 河村 葵, 内海 智博, 長尾 賢太郎, 都留 あゆみ, 大槻 怜, 北村 真吾, 栗山 健一. mRNA ワクチンによる抗体価上昇と睡眠時間の関連. 日本睡眠学会第45回定期学術集会・第30回日本時間生物学会学術大会 合同大会, 横浜, 2023.9.
78. 井谷 修. 健康づくりのための睡眠指針 2023(仮)の要旨と国民の睡眠健康改善目標 成人(労働者)における睡眠指針. 日本睡眠学会第45回定期学術集会・第30回日本時間生物学会学術大会合同大会, 横浜, 2023.9
79. 河村 葵, 角谷 寛, 鈴木 正泰, 栗山 健一, 内山 真, 山田 尚登, SEEDs Study 研究グループ. 携帯型脳波計を用いたうつ病の客観的生理指標の開発に関わる予備的調査. 日本睡眠学会第45回定期学術集会・第30回日本時間生物学会学術大会合同大会, 横浜, 2023.9
80. 角 幸頼, 小枝 正次, 藤原 幸一, 尾関 祐二, 角谷 寛. 医工連携による RBD 病態解明の取り組み 立ち上がる数分前に起立性低血圧を予測できるか?レム睡眠行動障害患者への心拍変動解析の応用例. 日本睡眠学会第45回定期学術集会・第30回日本時間生物学会学術大会合同大会, 横浜, 2023.9
81. 角 幸頼, 増田 史, 尾関 祐二, 角谷 寛. レム睡眠行動障害(RBD)の最新の知見 孤発性レム睡眠行動障害における精神症状の合併とその対応. 日本睡眠学会第45回定期学術集会・第30回日本時間生物学会学術大会合同大会, 横浜, 2023.9
82. 小川 景子, 角 幸頼, 角谷 寛. 医工連携による RBD 病態解明の取り組み レム睡眠行動障害患者の夢内容. 日本睡眠学会第45回定期学術集会・第30回日本時間生物学会学術大会合同大会, 横浜, 2023.9
83. 森田 えみ, 山田 尚登, 角谷 寛, 光田 洋子, 久保 陽子, 篠壁 多恵, 川合 紗世, 若井 建志, 田村 高志. 一般集団における睡眠薬使用と BDNF Val66Met 遺伝子多型との関連 J-MICC Study 大幸研究. 日本睡眠学会第45回定期学術集会・第30回日本時間生物学会学術大会合同大会, 横浜, 2023.9
84. 大塚 雄一郎. うつ病の克服に睡眠学・時間生物学はどのように貢献できるか? 職域におけるうつ病対策と睡眠との関連. 日本睡眠学会第45回定期学術集会・第30回日本時間生物学会学術大会合同大会, 横浜, 2023.9
85. 大塚 雄一郎. 健康づくりのための睡眠指針 2023(仮)の要旨と国民の睡眠健康改善目標 健康づくりのための睡眠指針における今後の課題. 日本睡眠学会第45回定期学術集会・第30回日本時間生物学会学術大会合同大会, 横浜, 2023.9
86. 大槻 怜, 松井 健太郎, 都留 あゆみ, 長尾 賢太郎, 内海 智博, 羽澄 恵, 綾部 直子, 福水 道郎, 吉池 卓也, 栗山 健一. 睡眠障害における概日リズムの役割と併存症 パンデミックにおける社会的同調因子の減少と睡眠・覚醒相後退障害. 日本睡眠学会第45回定期学術集会・第30回日本時間生物学会学術大会合同大会, 横浜, 2023.9

87. 大道 智恵, 角谷 寛, 尾崎 悦子, 小山 晃英. 睡眠の満足度と死亡リスクの関連 日本人 8 万人の追跡調査. 日本睡眠学会第 45 回定期学術集会・第 30 回日本時間生物学会学術大会合同大会, 横浜, 2023.9
88. 中島 英, 金子 宜之, 藤井 伸邦, 木附 隼, 斎藤 かおり, 長尾 賢太郎, 河村 葵, 吉池 卓也, 角谷 寛, 山田 尚登, 内山 真, 栗山 健一, 鈴木 正泰. 主要精神疾患における不眠と抑うつとの関連. 日本睡眠学会第 45 回定期学術集会・第 30 回日本時間生物学会学術大会合同大会, 横浜, 2023.9
89. 土器屋 美貴子, 河本 和裕, 前田 康行, 遠藤 郁実, 市場 正良, 兼板 佳孝, 近藤 英明, 松本 明子. 睡眠衛生のための ALDH2 多型判定 ACCEL で測定した中途覚醒と起床時尿中ドパミンの関連から. 日本睡眠学会第 45 回定期学術集会・第 30 回日本時間生物学会学術大会合同大会, 横浜, 2023.9
90. 藤原 幸一, 小枝 正汰, 角 幸頼, 今井 眞, 角谷 寛. 医工連携による RBD 病態解明の取り組み 心拍変動に着目したレム睡眠行動障害患者における起立性低血圧の有無を判定する機械学習モデル. 日本睡眠学会第 45 回定期学術集会・第 30 回日本時間生物学会学術大会合同大会, 横浜, 2023.9
91. 松本 悠貴, 日野 亜弥子, 熊懐 邦高, 井谷 修, 大塚 雄一郎, 兼板 佳孝. テレワークと出社の時差ぼけ(Telework Jetlag)とメンタル不調との関連性. 日本睡眠学会定期学術集会・日本睡眠学会第 45 回定期学術集会・第 30 回日本時間生物学会学術大会合同大会, 横浜, 2023.9
92. 角谷 寛. 研究論文の書き方(基礎的内容). 第 22 回日本睡眠歯科学会総会学術集会, 京都, 2023.10
93. 上津 昌広, 角谷 寛, 山田 理治. 市立長浜病院における口腔内装置(OA)作成後の使用状況調査. 第 22 回日本睡眠歯科学会総会学術集会, 京都, 2023.10
94. 角谷 寛. 私の睡眠研究遍歴. 第 22 回日本睡眠歯科学会総会学術集会, 京都, 2023.10
95. 角谷 寛. 「産業分野における歯科・医科連携」 産業現場における睡眠医科. 第 22 回日本睡眠歯科学会総会学術集会, 京都, 2023.10
96. 奥山 早希, 大槻 怜, 佐藤 洋一, 小嶋 悠太, 植村 哲也, 柿本 建治郎, 金森 正, 金子 宜之, 鈴木 正泰. たこつぼ型心筋症を併発したコタール症候群の一例. 第 36 回日本総合病院精神医学会総会, 仙台, 2023.11
97. 小嶋 悠太, 大槻 怜, 植村 哲也, 斎藤 かおり, 金森 正, 金子 宜之, 三井 容子, 鈴木 正泰. ビタミン B12 および葉酸欠乏により認知機能低下と歩行障害をきたした統合失調症の 1 例. 第 36 回日本総合病院精神医学会総会, 仙台, 2023.11
98. ツォボーセド・ウヤンガ, 吉村 篤, 角谷 寛, 尾関 祐二. モンゴル国における精神科医療の現状と展望. 第 30 回多文化間精神医学会学術総会, 東京, 2023.11

H. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得
なし
2. 実用新案登録
なし
3. その他
なし

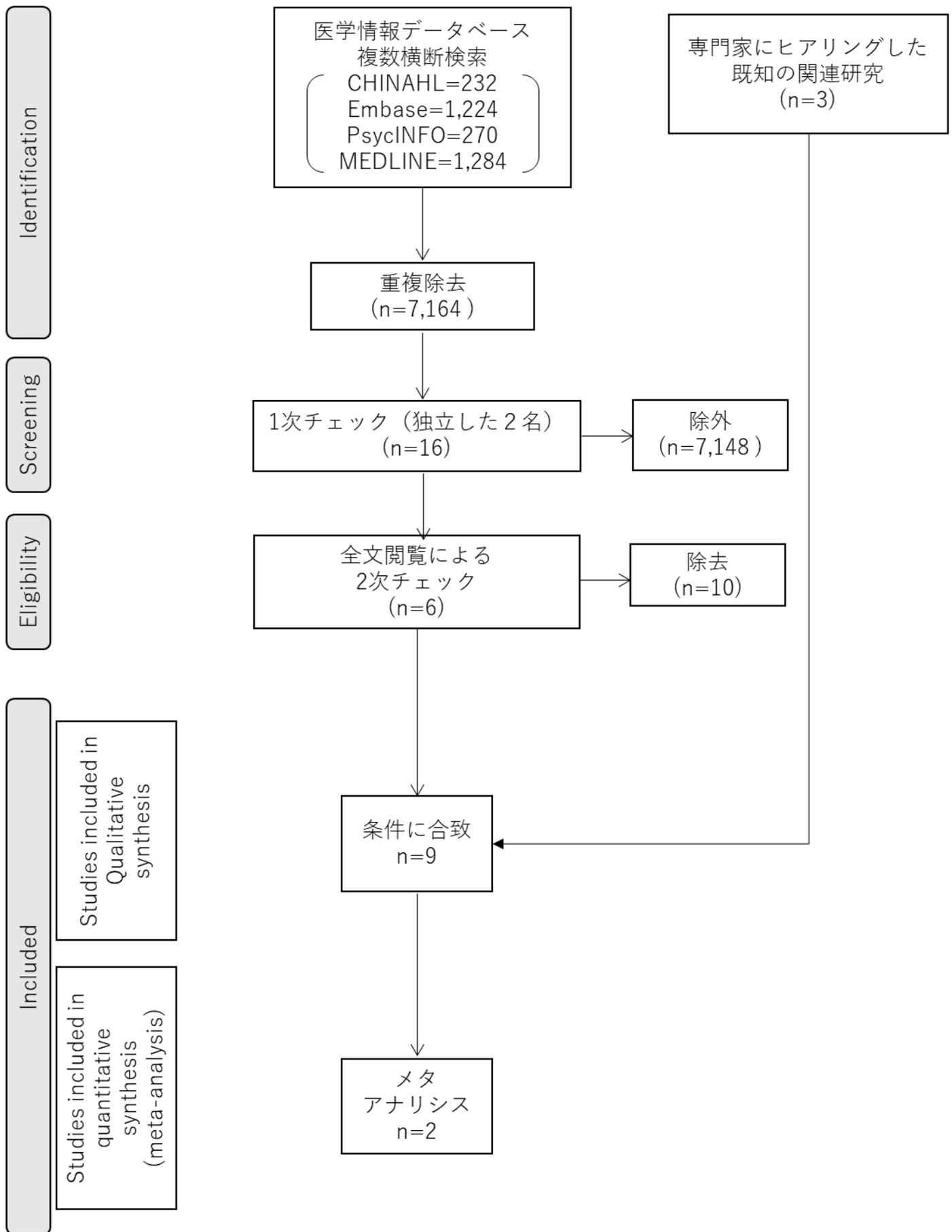


図1. データベースの横断検索結果と論文抽出過

First Author, Publication Year	Country Cohort name	Sample size (age; %female)	follo-up period	Outcome	Factors	Covariates	Results OR(95%CI), HR(95%CI)
Virtanen, 2009	England, The Whitehall II study of British civil servants	1,372 (mean 52.2, 24.2%)	4 years	Waking without feeling refreshed	Age	sex, marital status, occupational grade, education, chronic illness, exercise level, body mass index, smoking, alcohol use, and job demands	OR (age 35-40 vs. >55): 1.82(0.93-3.54)
Zhang, 2011 (Conference presentation)	Hong Kong	2,291 (mean 46.3, 50.0%)	5 years	non-restorative sleep	Socio-demographics (sex, age, education, employ, married, income), Sleep Problems (nightmare, snoring nocturnal sweating), Daytime symptoms (prefer not to get up in the morning, morning dry mouth, headache, daytime fatigue sleepiness attack, use of medication, sleep duration <6.5 hours)	Adjusted by all factors	Sex (Female): 1.65 (1.09-2.48) Prefer not to get up in the morning: 1.94(1.17-3.23) Daytime fatigue: 2.09 (1.18-3.70) Sleep duration (<6.5 h): 1.87(1.04-3.35)
Pedraza, 2012	Mexico, the Hispanic Established Population for the Epidemiologic Study of the Elderly (HEPESE)	1,035 (aged 75 years and older, 62.0%)	median 904 days	Wake Up After Usual Amount of Sleep Feeling Tired and Worn	Age, Gender, Marital status, Arthritis, Diabetes, Hypertension, Heart attack, Stroke, Hip fracture, Cancer, Cognitive impairment, CES-D score, Total ADLS, BMI	Adjusted by all factors	ORs Age: 1.04(0.99-1.09) Gender (Female): 1.50(0.88-2.55) Marital status (Married): 1.37(0.85-2.21) Arthritis: 1.39(0.86-2.25) Diabetes: 1.69(1.09-2.61) Hypertension: 1.89(1.13-3.13) Heart attack: 0.98(0.53-1.81) Stroke: 0.79(0.38-1.65) Hip fracture: 1.26(0.55-2.90) Cancer: 2.04(1.00-4.18) Cognitive impairment (MMSE<21): 1.16(0.72-1.85) CES-D score: 1.06(1.03-1.09) Total ADLS: 1.13(1.00-1.27) BMI (25< vs. 35>): 1.91(0.86-4.24)
Zhang, 2012	Hong Kong	2,291 (mean 46.3, 50.0%)	5 years	non-restorative sleep	Socio-demographics (sex, age, education, employ, married, income), Sleep Problems (nightmare, snoring nocturnal sweating), Daytime symptoms (prefer not to get up in the morning, morning dry mouth, headache, daytime fatigue sleepiness attack, use of medication, sleep duration <6.5 hours)	Adjusted by all factors	Sex (Female): 1.65 (1.09-2.48) Prefer not to get up in the morning: 1.94(1.17-3.23) Daytime fatigue: 2.09 (1.18-3.70) Sleep duration (<6.5 h): 1.87(1.04-3.35)

表 1 - 1. 抽出該当研究一覽 ①

First Author, Publication Year	Country Cohort name	Sample size (age; %female)	follo-up period	Outcome	Factors	Covariates	Results OR(95%CI), HR(95%CI)
Garefelt, 2016 (Conference presentation)	Sweden, Swedish Longitudinal Occupational Survey of Health (SLOSH)	3,552	6 years	Nonrestorative sleep.	Perceived stress		The relation between job strain and nonrestorative sleep is bidirectional, indicating a potential vicious circle.
Åkerstedt, 2018	Sweden, Swedish Longitudinal Occupational Survey of Health (SLOSH)	8,015 (47.6 ± 11.6 years, 56.8%)	8 years	The index non-restorative sleep from the items "difficulties awakening" and "enough sleep," not well-rested on awakening," all scored 1-6	Age	occupation and gender	Coefficient -0.013(-0.015 to -0.010)
Garefelt, 2020	Sweden, Swedish Longitudinal Occupational Survey of Health (SLOSH)	3,706 (mean age 47 years)	6 years	Nonrestorative sleep "Not feeling refreshed at wake-up".	Perceived stress Work demands Decision authority	Difficulties initiating sleep, Difficulties mainiating sleep	Structural Equation Modelling (SEM) Perceived stress or Decision authority was significantly related to non-restorative sleep. No significant paths from Work demands to non-restorative sleep.
Tettamanti, 2020	Finland and Sweden, The prospective Cohort Study of Mobile Phone Use and Health (COSMOS)	24,169 (age range 18-65 years, 55%)	8 years	"how often did you feel that your sleep was not quiet ?"	All calls, UMTS call time divided by 150 Time on GSM network Time on UMTS network Restricted to participants with only GSM call time	age, gender, country, sleep outcome at baseline, current smoking, alcohol consumption, body mass index, educational level, weekly headache, mental and physical health score (SF-12), and diagnosis of depression	All calls, UMTS call time divided by 150 (<24 min vs. 190+min): 1.09(0.89-1.33) Time on GSM network (<24 min vs. 190+min): 1.14(0.93-1.40) Time on UMTS network (0 min vs. 122+min): 1.21(0.98-1.48) Restricted to participants with only GSM call time (<24 min vs. 190+min): 1.08 (0.82-1.42)
Otsuka, 2022	Japan, health check-based cohort	93,548 (aged between 39 and 75 years, 26.7%)	7 years	Non-Restrative Sleep "Do you feel refreshed after a typical night's sleep?" "No or Yes."	Smoking, Heavy alcohol consumptionm Fast eating speed, Dining close to bedtime, Midnight snacking, Skipping breakfast, Non-regular exercise, Low levels of physical activity, Slow walking speed	age, sex, BMI, diabetes, hypertension, dyslipidemia, stroke, cardiac disease, and renal failure	HRs Smoking 1.02(0.99-1.05), Heavy alcohol consumptionm 0.90(0.86-0.93), Fast eating speed 1.07(1.04 -1.10), Dining close to bedtime 1.33(1.27-1.38), Midnight snacking 1.09(1.04-1.13), Skipping breakfast 1.16(1.10-1.22), Non-regular exercise 1.12 (1.07-1.17), Low levels of physical activity 1.19(1.14-1.24), Slow walking speed 1.34(1.29-1.39)

表 1 - 2. 抽出該当研究一覽 ②

Study	Study Participation	Study Attrition	Prognostic Factor Measurement	Outcome Measurement	Study Confounding	Statistical Analysis and Reporting
Virtanen, 2019 ³	high	low	high	high	high	high
Zhang, 2011 ⁴	low	low	low	low	low	high
Pedraza, 2012 ⁵	high	low	high	high	high	high
Zhang, 2012 ⁶	high	low	high	high	high	high
Gerefelt, 2016 ⁷	low	low	low	low	low	high
Akerstedt, 2018 ⁸	high	low	high	high	high	high
Garefelt, 2020 ⁹	high	low	high	high	high	high
Tattemanti, 2020 ⁹	high	low	high	high	high	high
Otsuka, 2022 ¹⁰	high	moderate	high	high	high	high

※各評価項目のバイアスリスクを評価 (high: リスクが高い, low: リスクが低い)

表3. QUIPS による研究評価一覧

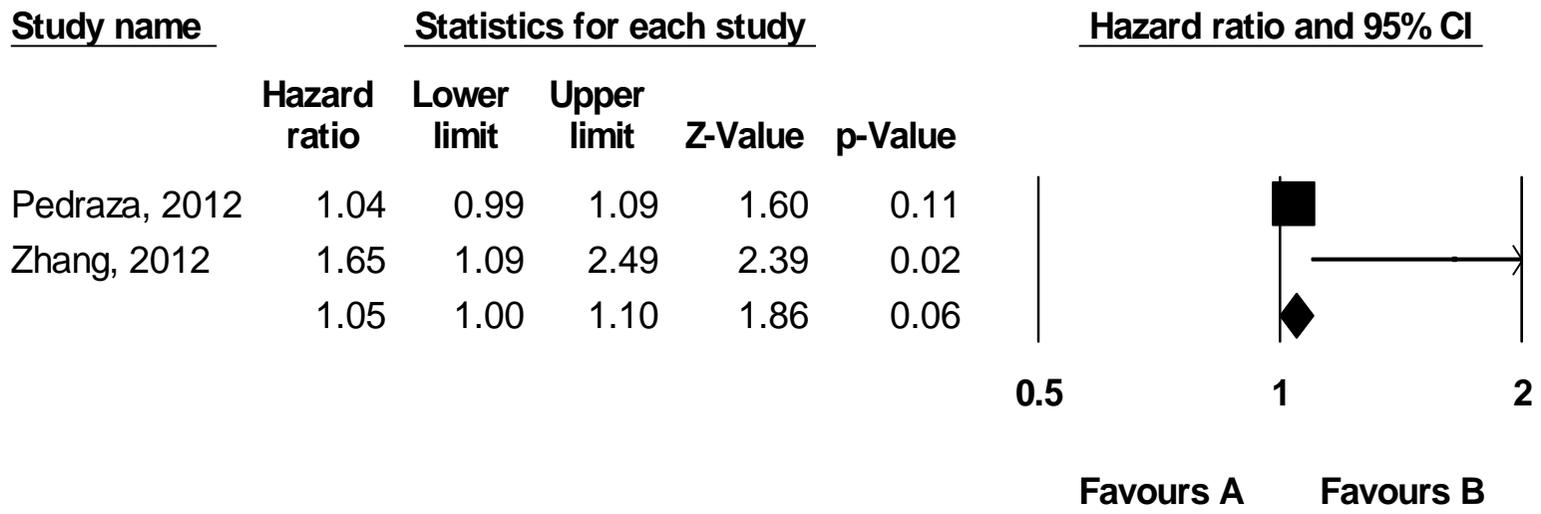


図2 のメタアナリシス